

平成13年度学長特別研究

蒲原町サマースクールと地域活性化研究

(代表) 空間造形学科	教授	川口 宗敏
技術造形学科	助教授	望月 達也
空間造形学科	助教授	鳥居 厚夫
芸術文化学科	助教授	岩渕 潤子
芸術文化学科	教授	大山千賀子

1. 研究の目的

現在、地方中小都市は、地方分権の考えに基づいて独自の地域活性化策を模索している。静岡県蒲原町では、文化芸術活動を中心に据えた町活性化を企画し、2000年に本学に対し文化芸術活動の支援を要請してきた。そこで、本学教官・学生と蒲原町民との共同ワークショップ形式によるサマースクールを実験的に試みた。

このサマースクール開催の目的は、蒲原町内の文化財や歴史財などの資源を活用して町の文化芸術活動を活性化すること、本学の先進的かつ多様な文化芸術活動を学内・外へと情報発信すること、本学と蒲原町との文化・人材交流の促進を図ることであった。

以下、2000年12月に開催した「プレ・サマースクール in かんばら」と2001年9月に開催した「サマースクール in かんばら」2001年の活動概要を報告する。

2. 実施内容

2.1 「プレ・サマースクール in かんばら」

2000年12月9日、蒲原町文化センターにおいて「プレ・サマースクール in かんばら」を開催した。このプレ・サマースクールでは、本学教官による2つの講演とシンポジウムが行われた。この催しは、本番のサマースクールへ向けた準備段階の1つの活動として位置付けられた。

(1) 川口宗敏 講演「芸術文化の香り漂う街」

この講演では、「みがく、いかす、たくわえる」からなる3つのキーワードを軸として、今後の蒲原町における文化芸術活動の展望が述べられた。先進的な外国の事例として、ザルツブルクにおける音楽、ブルージュにおける景観と美術、フライブルクにおける環境と交通、ニューポートにおける市民ボランティア活動などが紹介され、生活の豊かさと選択肢の多さについての講演が行われた。

(2) 岩渕潤子 講演「小都市における文化を活かしたまちづくり」

この講演は、文化のまちづくりを推進している茨城県古河市での岩渕の経験を踏まえ、行政と文化芸術との関わり、文化を活かしたまちづくりの在り方についての講演が行われた。ここでは、選挙に左右されない明確な文化行政の指針を持つこと、古い街並みや文化的資源を有効に活用することなどが指摘された。

(3) シンポジウム「21世紀・蒲原町は文化芸術活動でよみがえる」

このシンポジウムは、山崎寛治蒲原町長、小西亮衛と伊豆川昌代の町民2名、岩渕から

なる4名のパネリストに、川口をコーディネーターに進められた。シンポジウムでは、パネリストによって町の文化現況に対するそれぞれの考え方が提示され、サマースクールに対する期待と展望についての議論がなされた。

2.2「サマースクール in かんばら」2001 年

2001 年 9 月 5 日から 9 月 9 日までの 5 日間、蒲原町文化センターを主会場に「サマースクール in かんばら」2001 年を開催した。このサマースクールは、4つのワークショップが設けられ、町民 30 名、本学教官 5 名、学生 29 名が参加して行われた。ワークショップ 1 は「夜の蒲原」をテーマに、ワークショップ 2 は「風景シミュレーション」をテーマに、ワークショップ 3 は「生活風景描写」をテーマに、ワークショップ 4 は「竹久夢二の空想美術館」をテーマに実施した。以下、4つのワークショップの活動内容の概要を示す。

(1) ワークショップ 1 「夜の蒲原」

このワークショップ 1 「夜の蒲原」では、蒲原町の古い街並みに調和した夜の景観を意識し、照明作品の制作が行われた。使用した材料としては、富士川河川敷の流木、城源寺の竹、その他に木材、和紙、鉄、布、ガラスといった身近にある素材を使用し、光源は電灯、ローソクなどが用いられた。一人一作品の制作を原則としたが、町民と学生による共同作品も制作可能とした。最終的に 29 の照明オブジェが完成した。夜間の照明オブジェ設置場所として、町道善福寺線の歩道空間が充てられた。夜間行われた照明オブジェのプレゼンテーションには、ワークショップに参加できなかった多くの町民も集まり、作品に対する評価も好意的であった。このワークショップ 1 は、川口宗敏・鳥居厚夫の指導により行われた。(写真 1、写真 2、写真 3、写真 4 参照)

(2) ワークショップ 2 「風景シミュレーション」

このワークショップ 2 「風景シミュレーション」では、「行政と住民のコラボレーション」と「町づくりのためのコミュニケーション」を目的とし、パソコンによるシミュレーション作品制作を行った。蒲原町の古い街並みや堀川運河などを写真やビデオで撮影し、これを材料に写真加工や動画編集作業を行い、昔の街の姿やこれから整備して欲しい景観イメージの制作を行った。例えば、電柱のない街並み、雑草のない運河、エアコン屋外機や自動販売機のない民家の外観などを再現した。このワークショップ 2 は、望月達也の指導により行われた。(写真 5、写真 6、写真 7、写真 8 参照)

(3) ワークショップ 3 「生活風景描写」

このワークショップ 3 「生活風景描写」では、「現代を象徴するもの」と「木」の2つのテーマに分け、撮影が行われた。ワークショップには、学生 5 名と町民 6 名に加え、地元の高校生 7 名が参加した。「現代を象徴するもの」では、旧東海道の街並みや旧五十嵐邸の見学撮影を行った。「木」では、東漸寺〜相守神社〜御殿山にて撮影を行った。最終的な作業としては、撮影写真から各自 10 枚を選択し、プレゼンテーションを文化センター・ホールにて行った。このワークショップ 3 は、大山千賀子の指導により行われた。(写真 9、写真 10、写真 11、写真 12 参照)

(4) ワークショップ 4 「竹久夢二の空想美術館」

このワークショップ 4 「竹久夢二の空想美術館」では、町所有の夢二の作品をインターネット上で公開するという展示方法を考え、参加者全員でホームページを作り上げる企画であったが、夢二と蒲原町の接点が少ないことから、アプローチを変更した。映像作家の岸本康氏と民間シンクタンクで観光による活性化を研究している黒澤行紀氏の協力により、町内ウォッチングや撮影を行った後、竹久夢二を活用した美術館構想についてディスカッションが行われた。

また、夢二の恋愛を中心とした作品に着目し、参加者全員が恋愛詩を創作・発表した。このワークショップ4は、岩渕潤子の指導により行われた。(写真13、写真14、写真15、写真16参照)

3. 得られた成果と評価

以上、「サマースクール in かんばら」2001年では、ワークショップ1・2は5日間、ワークショップ3・4は2日間の日程で行なわれた。このサマースクールは初回ということで、大きな行動フレームだけは決めてあったが、敢えて細かなカリキュラムは決めず、ワークショップの内容については指導教官の裁量に任され実施された。

そして、以下の4項目が、得られた主要な成果であると考ええる。

- ① 本学の先進的かつ多様な文化芸術活動を新聞やテレビ・ニュースを通して学内・外へ情報発信した。
- ② 本学学生の学習能力の向上と教員の教育研究能力の向上を図ることができた。
- ③ 本学と蒲原町との文化・人材交流の促進を図ることができた。
- ④ 蒲原町の文化芸術活動を中心とした地域活性化に貢献できた。

また、この事業の評価に関して言及すれば、参加者に対するアンケート結果から、大半の参加者は良かったと回答している。また、ワークショップに参加しなかった一般町民の「夜の蒲原」の展示作品に対する評価は、非常に高いものがあつた。また、主催者でもある行政側から事業を継続したいという要望が、大学側に寄せられた。

なお、今後の課題としては、蒲原町での成果をどの様に蒲原町内外、大学内外で活かしていくことができるか検討する必要がある。とりわけ、長期間休みの夏休みを利用したサマースクールの様な短期集中的な教育プログラムの展開は、学生や教官にとって通常の授業では得られない貴重な機会であり、創造的に様々な事柄を試すことが出来る好機でもあると考える。

参考資料



写真 1. 蒲原海岸での流木採集風景



写真 5. 資料作成風景



写真 2. 作品制作風景



写真 6. 写真撮影風景



写真 3. 内藤史成の照明作品「半月」

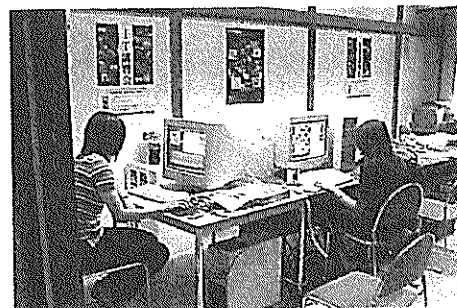


写真 7. 動画編集風景

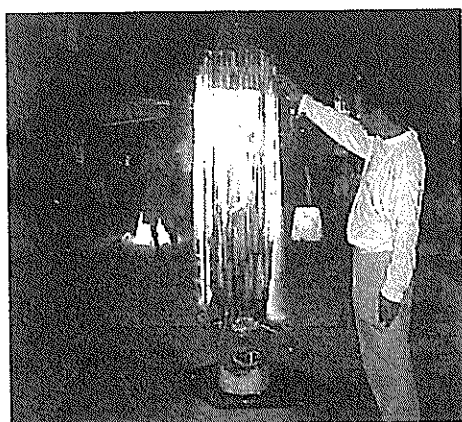


写真 4. 戸田 勝の照明作品「摩訶不思議」

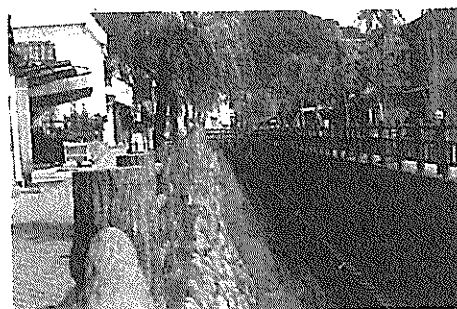


写真 8. 石野欽二制作の風景シミュレーション

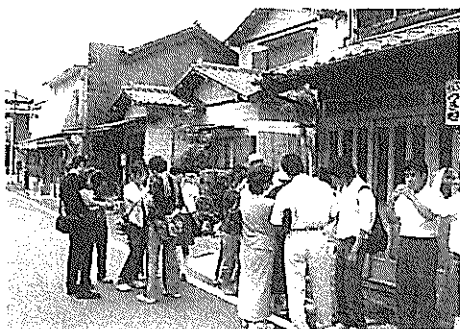


写真 9. 旧東海道での撮影風景

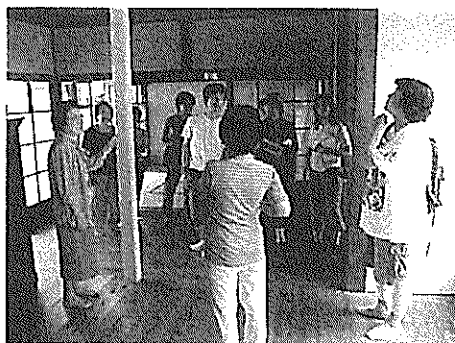


写真 13. 旧五十嵐邸訪問風景



写真 10. 東漸寺での撮影風景



写真 14. ビデオ撮影風景



写真 11. 教官による指導風景

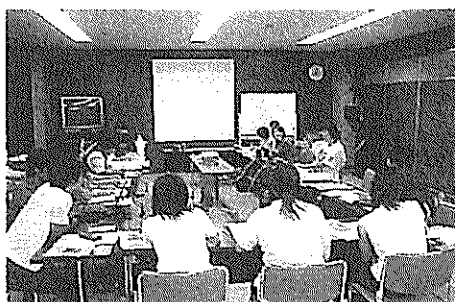


写真 15. ディスカッション風景



写真 12. 町民による成果発表風景



写真 16. 恋愛詩の朗読とビデオ撮影風景